

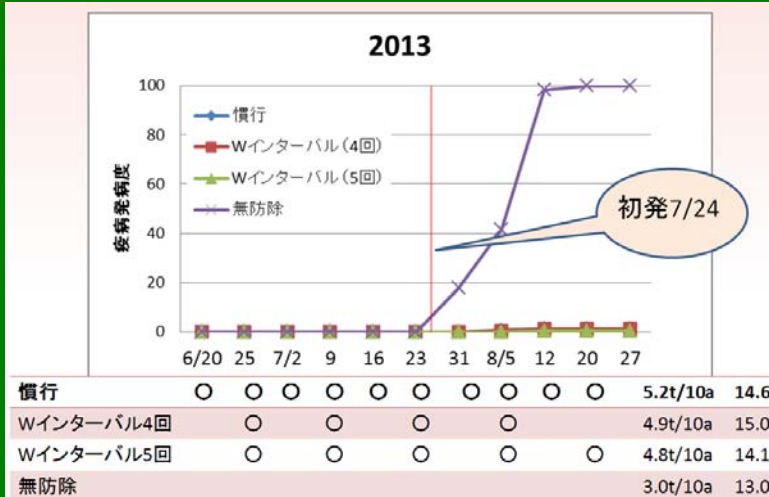
ばれいしょの特別栽培を可能にする疫病防除法

特別栽培を行うためには、疫病の防除回数を減らすことが要となる。そこで、疫病は**ダブルインターバル(14日間隔)散布**で対応する。注:各病害虫に対する使用回数の振り分けは参考例で、合計が10回以下になれば良い。

表1 特別栽培のための農薬使用成分回数

	対象病害虫ごとの使用回数					計
	除草剤	アブラムシ類	種子消毒	疫病	軟腐病	
慣行	2	6	2	8	3	21
特別栽培	1	3	2	4	0	10

6月中から散布を開始しても、ダブルインターバル4回で防除できる



処理区	散布履歴									
	6/20	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/31	8/5	8/13	8/20
Wインターバル1(4回)		F1000		C		F1000		C		
Wインターバル2(4回)		F1500		C		F1500		C		
Wインターバル1(5回)		F1000		C		F1000		C		F1000
Wインターバル2(5回)		F1500		C		F1500		C		F1500
慣行	M	F1500	M	C	M	F1500	M	C	M	F1500
無防除										

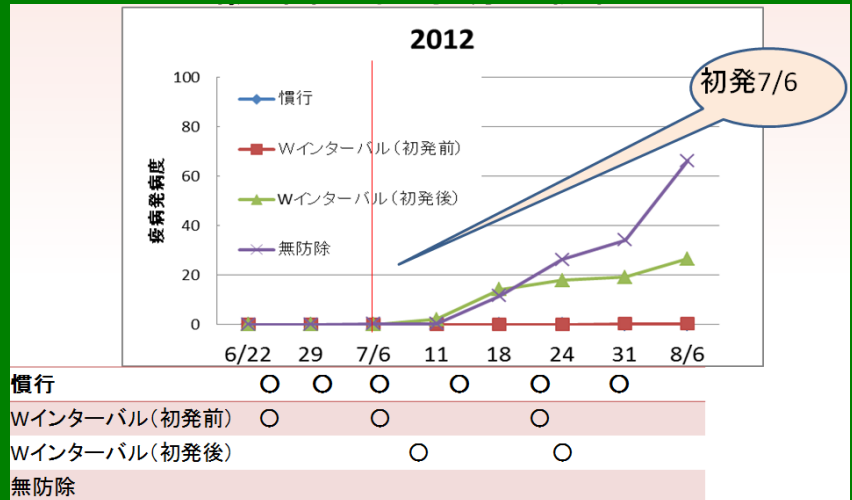
処理区	最終発病度	塊茎腐敗率(%)	規格内収量	ライマン価
	8/27	10/8	(t/10a)	
Wインターバル1(4回)	0	0	4.7a	14.2a
Wインターバル2(4回)	0	0	4.9a	15.0a
Wインターバル1(5回)	0.4	0	5.0a	14.1a
Wインターバル2(5回)	0.4	0	4.8a	14.1a
慣行	1.3	0	5.2a	14.1a
無防除	100	1.2	3.0b	14.6a

注: 初発日7/24(図中の縦線)、表中の記号はF1000:フルアジナム水和剤1000倍、F1500:フルアジナム水和剤1500倍、C:シアゾファミド水和剤F1000倍、M:マンゼブ水和剤400倍を示す。収量およびライマン価の同じアルファベットは危険率1%で有意差がないことを示す。

初発前からの散布が高い防除効果を示す!

処理区	散布履歴										最終発病度(防除価)
	6/19	6/24	7/2	7/9	7/11	7/16	7/23	7/24	7/30	8/6	
W体系1(初発前)	F1000		C			F1000		C			0.4(99)
W体系2(初発前)	F1500		C			F1500		C			1.3(98)
F1000(初発後)				F1000			F1000				23.8(64)
F1500(初発後)				F1500			F1500				26.7(60)
慣行	M	F1500	M	C		M	F1500	M	C		0(100)
無防除											66.3

注: 初発日7/6(図中の縦線)、表中の記号はF1000:フルアジナム水和剤1000倍、F1500:フルアジナム水和剤1500倍、C:シアゾファミド水和剤F1000倍、M:マンゼブ水和剤400倍を示す。



特別栽培を行う際の殺菌剤使用法

対象病害	黒あし病、黒あざ病、そうか病	疫病	軟腐病
処理時期	植付前	疫病初発前～8月中旬	7月中旬～
処理方法	対象病害に対する指導参考薬剤から2成分	フルアジナム水和剤1500倍、マンジプロパミド水和剤F1500倍、アミスルブロム水和剤F2000倍、シアゾファミド水和剤F1000倍から選択しダブルインターバル4回散布	非病原性エルビニア・カトボーラ水和剤を適切な時期に1～2回